



田辺市中辺路町に「積水ハウスの森」と名付けた「企業の森」で、年2回植樹や下草刈りを行い森林保全活動に取り組んでいる。



「稲むらの火の館」は「稲むらの火」で有名な濱口梧陵の偉業と防災の精神を学べる施設である。梧陵ゆかりの地和歌山県広川町に位置している。

プラス思考で好奇心溢れる性格は、和歌山生まれだからと語る和田会長。積水ハウスの方向性から和歌山の方向性を考える。

若者よ！ プラス思考で、 好奇心を持って



知事対談 和田 勇 × 仁坂吉伸

積水ハウス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO
和歌山県知事



世界初となる太陽電池・燃料電池・蓄電池の3電池連動自動制御の住まいで、災害停電時にも自立した生活を可能とする「グリーンファーストハイブリッド」。横浜市みなとみらい21地区に立つスマートハウス「観環居」で、実証実験が行われている。

れ、必ずそのお客様が新しいお客様を紹介してくれるのです。
仁坂●住宅産業はクレーム産業だと以前会長にお聞きしました。
和田●私は社長になり最初に掲げたのがCSの向上でした。家は非常に高価なので、気に入らないからといってすぐ買い替える訳にはいかないし、その苦情の端緒の90%は当社に問題がある訳です。だから徹底してクレームに目を通し対処することで自社の製品の質を向上させることができました。多くの社員が煙たがる苦情こそが宝の山なのです。
仁坂●なるほど。そういった細やかな対応で信頼を獲得した結果、全国一位という成績を残せた訳ですね。ところで当時の住宅業界というのはどの様なものだったのでしょうか？
自分でも未来を拓くには好奇心が最も重要
和田●当社はこれまで200万戸以上の家を作ってきましたが、当時の住宅業界はただ産業と呼べるものではなく、大工さんがコツコツ建てていた時代でした。実は今も外国には大きな住宅メーカーというのがありません。
仁坂●そういった先例もないので、業界の仕組みやビジネスモデル自身も作らなければならなかったのですね。

仁坂知事(以下仁坂)●和田会長は和歌山県出身ということもあり、積水ハウス様には台風12号災害に対して義援金を贈呈いただき、ありがとうございます。
和田勇氏(以下和田)●とんでもありません。それで復興は順調ですか。
仁坂●ありがとうございます。全国からの支援もあり、ほぼ全ての場所で応急復旧を終えたと思っています。もう県内どこでも行けますし、ガレキなどは全部取り除きました。
和田●非常に前向きな県民性だからこそ今回のような被害に遭われても復旧が早くできたのだと思っています。私は出身地を聞かれるといつも誇らしげに和歌山出身だといいます。私自身何があってもくよくよせず、マイナス思考には絶対ありません。これはやっぱり和歌山県民気質なのかと思います。
仁坂●さらに打たれ強いのも特徴なのかと思います。会長も積水ハウスに入社された時は相当苦労されたと聞いています。
和田●私が入社した1965年はオリンピック景気も終わりを告げた就職難の年でした。元々モノを作るのが好きだったので積水ハウスに入社し、名古屋営業所で入社2年目から全国1位の営業成績をあげました。当時は展示場もないような会社でしたので、どうやって売ればいいのか分からない状態でした。しかしお客様に誠心誠意尽くせば人間的にも信頼され、必ずそのお客様が新しいお客様を紹介してくれるのです。
仁坂●住宅産業はクレーム産業だと以前会長にお聞きしました。
和田●私は社長になり最初に掲げたのがCSの向上でした。家は非常に高価なので、気に入らないからといってすぐ買い替える訳にはいかないし、その苦情の端緒の90%は当社に問題がある訳です。だから徹底してクレームに目を通し対処することで自社の製品の質を向上させることができました。多くの社員が煙たがる苦情こそが宝の山なのです。
仁坂●なるほど。そういった細やかな対応で信頼を獲得した結果、全国一位という成績を残せた訳ですね。ところで当時の住宅業界というのはどの様なものだったのでしょうか？
自分でも未来を拓くには好奇心が最も重要
和田●当社はこれまで200万戸以上の家を作ってきましたが、当時の住宅業界はただ産業と呼べるものではなく、大工さんがコツコツ建てていた時代でした。実は今も外国には大きな住宅メーカーというのがありません。
仁坂●そういった先例もないので、業界の仕組みやビジネスモデル自身も作らなければならなかったのですね。

和田 勇(わだいさみ)

昭和16年和歌山県生まれ。和歌山県立粉河高校出身。関西学院大学卒業後、昭和40年積水ハウス入社。平成10年、代表取締役社長就任、平成20年、代表取締役会長兼CEO就任、現在に至る。

知事対談

和田 勇 × 仁坂吉伸

積水ハウス株式会社
代表取締役会長兼CEO

和歌山県知事

環境問題の先駆者は新しい暮らしを提案する

仁坂 ●和歌山県は御社に二つの意味でお世話になっています。ひとつは和歌山県の材木の販売に関し建材メーカーをご紹介していただき、何万立米も需要が増えました。紀州材の木質は緻密で優良材として評価が高いのですが、無垢材だけでなく、集成材など加工製品の材料にしていけないと需要は増えないと考えています。もうひとつは環境貢献の一環として、和歌山県の「企業の森」事業に参画いただき、森林の保全や再生にご協力いただいています。それは

御社の広告や活動でも「環境に対する姿勢」というのが前面に出ています。

和田 ●当社の環境問題への対応は早く、1999年には「環境未来計画」を発表し、二酸化炭素の排出が少ない住宅づくりを目指してきました。「環境問題」への関心がまだ低い当時から、「環境に優しく健康で長生きできる家を作れ」と指示してきました。そして2008年北海道洞爺湖サミットでは、「ゼロエミッションハウス」を国際メディアセンター前に展示させていただきました。世界中に積水ハウスの環境への取り組みを広めるきっかけになりました。その後「快適性・経済性・環境配慮をテーマにした環境配慮型住宅「グリーンファースト」を

積極的に推進し、2011年には「グリーンファーストハイブリット」を発表しました。

仁坂 ●それは具体的にどのようなものなのでしょうか？

和田 ●太陽の光で発電する太陽電池とガスで電気とお湯を同時に作る燃料電池、そして電気をストックできる蓄電池といった3つの電池が連動する世界初のスマートハウスのことです。昼間は太陽光発電で消費電力をまかない、夜は蓄電池の電気を使用します。また地震などの災害でライフラインが寸断されてもエネルギーの自給自足が可能なシステムとなっています。現在当社は年間約48000戸を新築し、戸建住宅は

17000戸を供給しています。その内の約80%がグリーンファースト住宅となっています。

日本の将来も見据えた創エネ・省エネ住宅を

仁坂 ●それは凄いですね。防災問題は阪神・淡路大震災以降急速に関心を集め、東日本大震災以降は環境問題を含めた日本のエネルギー施策の大きな転換期を迎えました。

和田 ●そうです。そこで政府のエコポイントや当社独自のWエコポイント制度を利用した創エネ・省エネリフォームが評判を集めています。仮に当社の既築住宅約77万戸全

てに太陽光発電システムが設置されれば、なんと270万キロワットが発電されるようになります。

仁坂 ●すごい発電量ですね。さらに防災という面で住宅の強度についてはどのように進化しているのでしょうか？

和田 ●当社の耐震住宅は、阪神・淡路大震災の時でも1棟も倒壊しませんでした。でも揺れるんですね。その揺れを防ごうと、まず免震構造となり、現在では特殊なゴムを鋼製のフレームに組み込み、地震の揺れを2分の1に低減する独自の制震構造「シーカス」を開発。東日本大震災以降の新築住宅の9割近くの方が採用しています。今回の震災でも当社の住宅は地震の揺れでは1棟

も半倒壊しなかったのですが、津波の被害は免れませんでした。「家」とはお客様の生命と財産を守るシェルターであり、さらに家族の心を守るシェルターでなければと考えています。

仁坂 ●和歌山県では紀伊半島の沖で発生すると言われている東海・東南海地震への対応が必至となっています。ただ問題は紀伊半島と震源地が近く、津波が早く来るといふ事なのです。だから県としても多くの生命を守る為に避難方法を考え、また津波がすぐ到達するような地域は、高台への移転も視野に入れなければなりません。

和田 ●それは絶対必要ですね。和歌山にはあの「稲むらの火」で有名な濱口梧陵さんの

良い例があります。

仁坂 ●その安政南海地震が発生した11月5日が津波対策の推進に関する法律で「津波防災の日」に制定されました。梧陵は村の為に私財を投じて堤防を作るなど、優れた政治家であり企業家でした。また去年からその日を記念して記念式典やシンポジウムを行い、啓蒙活動を展開しています。

今後の積水ハウスと和歌山について

和田 ●日本の人口は減少していますが、世界の人口は90億人にまで増え、世界的な住宅難が起きるといわれています。そこで積

水ハウスでは積極的に海外進出を行い、現在ではオーストラリアやアメリカ、シンガポール、中国で事業を開始しました。日本の住宅は、国際的にも競争力のある一流品だとすでに評判をいただいています。

仁坂 ●なるほど。日本人はもっと自信を持ち、世界を相手に挑戦するということが、和歌山在住の企業にも世界で通用する企業がたくさんあります。販路を世界に広げるなど、これからの挑戦です。また、和歌山県には世界遺産に登録された熊野や高野山といった競争力のある観光資源があります。世界を相手にした観光地として、さらに売り出しを考えていきます。本日は本当にありがとうございました。

仁坂吉伸(にさかよしのおぶ)
和歌山県知事